

令和元年6月26日現在

機関番号：34320

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2015～2017

課題番号：15H05201

研究課題名（和文）平等と卓越性のバランス政策を軸とする自律的公設学校の国際比較

研究課題名（英文）Comparative study on Autonomous Schools from the Viewpoints of the Policy
Balancing the Equality and Excellency

研究代表者

中島 千恵（Nakajima, Chie）

京都文教大学・臨床心理学部・教授

研究者番号：20309107

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,500,000円

研究成果の概要（和文）：多様な教育ニーズを包摂し、平等を追求しながらも優秀な人材をいかに育成するのが、公教育の課題である。本研究では、平等と卓越性を軸に、公費で設置され自律的に運営できる自律的公設学校の国際比較を実施した。

アジア諸国（シンガポール、インドネシア、韓国、日本）では自律的公設学校は、グローバル人材育成に焦点化される傾向があり、学校の設置も限定的である（インドネシアでは閉鎖）。しかし、公教育の枠外の学校の増加も認識され、新たな課題が発生している。英・米・スウェーデンでは、自律的公設学校の拡大によって多様なニーズを包摂し、深い葛藤を抱えながらも公教育は次のステージを模索しつつあるかに見える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1)過去15年ほどの間に国際的に普及・拡大してきた自律的公設学校について、本研究でとりあげた英・米とアジア諸国では大きく異なる2つのアプローチがあるものの、どちらも従来の公教育の枠組みの「中」あるいは「外」に新たな社会的リスクを生み出していることを明らかにした。(2)第2に公教育の発展段階という視点から調査結果を分析し、第3段階への模索を示唆し、今後の公教育の在り方の検討に寄与する実証的データを提供することができた。さらに、(3)企業が国境を越え、他国の公立学校運営に乗りだしている実態を伝え、近年、教育関連の学会で展開されてきた公共性概念の変容に関する議論に一石を投じることができた。

研究成果の概要（英文）：What are the national strategies to realize equality and excellence in education? In asking this question, we focused the publicly funded autonomous schools (PFAS) which are given a certain degree of autonomy to fulfill certain purposes. We compared 8 countries; the U.S., Sweden, England, Finland, Singapore, Indonesia, Korea and Japan.

In the U.S., England and Sweden, PFASs are allowed to establish to meet the variety of educational needs, with the diminishing authority of traditional school board, and participation of private business (even of foreign) to run the public schools. The new social risks are generated causing the severe conflicts within the public school system. In Asian countries we looked, they are controlled by the central government (Indonesia closed the school), and the missions are skewed to educating talented manpower for the global world. In Korea and Japan, autonomous schools outside of public compulsory school system are becoming a challenge for the governments.

研究分野：教育学、教育行政学、比較教育学、初等・中等教育、幼児教育

キーワード：自律的公設学校 平等 卓越性 多様化 国家戦略 グローバル化 国際比較

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

過去 10 年、国際的競争を意識した国家戦略の下、アカウントビリティを共通語として、卓越性(質の高い教育)を目指す学校設置や改革がグローバルに進行している。その中で自律的性格を持つ公設学校の台頭が著しい。日本でも国家戦略特区で公設民営の自律的学校の創設が閣議決定した。かたや教育の平等化を推し進めようとする国際的動きは、義務教育段階のみならず幼児教育の段階にまで降りてきている。平等も質も社会の発展と国民の幸福には不可欠の要素である。しかし、両者は対立する側面を持つ。また、国により平等概念も異なる。いかなる「平等」を志向し、いかに両者のバランスを保つかは国民の権利保障、そして国家経済において重要な政策課題である。民間の力を活用した自律的な公設学校設置は、グローバルな動きである。なおかつ学校システムを大きく変える可能性を持つ。平等と卓越性を追究する政策の中で教育段階の接続関係にも変容が見られる。また、自律的公設学校の誕生とともに、国家は、公立学校が一元的に管理運営されていた時代にはなかった葛藤や格差拡大、地域の分断など、新たな「社会的リスク」に直面し、その対策を迫られている。更に、公教育行政やサービスをどのように考え、国家が国民教育にどのように関与すれば国民の教育の自由と教育の質や公平性を担保できるのか、新たな理念的課題とも向き合わなければならなくなってきた。

2. 研究の目的

本科研は自律的公設学校を国家戦略としてどのように活用しているのか、またそのことによって公教育の構造や社会にどのような変化とリスクをもたらしているかについて、平等と卓越性を軸として国際比較をすることを目的とする。

3 年間に以下のことを解明し、日本への示唆を得る。

- [1] 自律的公設学校を、当該国の国家戦略や学校制度における位置づけにより類型化し、公教育の構造変化をグローバルな視点で捉える。
- [2] 平等と卓越性のバランスをどのように取るようとしているのか、全体的政策を鳥瞰する。
- [3] 各国が政策的に追究する「平等」の概念の違いを明らかにする。
- [4] 自律的公設設置で予想される「社会的リスク」に対する対策(法整備、評価等)。
- [5] 自律的公設学校設置により、幼、小、中、高の接続関係に変容はみられるか。
- [6] 自律的公設学校の設置は、公教育の行政またはサービス概念にどのような変容をもたらしているか

3. 研究の方法

本研究では、Esping-Andersen が分類する福祉レジ-ムに依拠し、「自由主義的」伝統を持ち、公立学校制度の在り方を大きく変えているイギリス、アメリカ、「社会民主主義的」伝統の強いスウェ-デンとフィンランド、そしてその中間のどこかに位置するアジア諸国(インドネシア、シンガポール、韓国、そして日本)を対象に、国際比較調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 自律的公設学校に対する政策は、大きく欧米型(英、米、スウェーデン)とアジア型(インドネシア、韓国、シンガポール、そして日本)に類型化することができた。両者ともに自律的公設学校設置が国の政策の一環として推進されるが、量の拡大、対象児童生徒の幅、設置目的への中央政府の関与の度合い、民間の教育運営組織の参加を許容するか否かなどで異なる。平等と卓越性の観点から考察すると、欧米型では、フィンランドも含み、公設学校の多様によってすべての人々を公教育に包摂しようとしている。アジア型では、グローバル人材またはエリート育成に焦点化され、平等な教育機会の保障を第一の目的とはしていない。

(2) 新たな社会的リスクとして、欧米型では、公立学校運営に企業参入による功罪と従来型公立学校との葛藤が民主主義の危機をもたらしていると危惧されている。また、教育要求を激しくする親の政治化も社会の葛藤を深くしている。アジア型では、韓国では公教育の外に無認可の学校が拡大する傾向にあり、対応に苦慮している。シンガポールでは、「卓越性」と「平等性」の追求の中で、競争が激しくなり、学校外の私教育(塾や家庭教師)の依存が増加し、子どもが所属する学校ヒエラルキーが、その保護者の出身階層や貧富との相関を高めるという副作用を招いている。公教育は「量的拡大」「量と質の拡大」を経て、第3ステージへの模索段階にあるのではないかと考えられる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 16 件)

中島千恵、公教育の第3ステージへの模索 自律的公設学校の国際比較を通して、比較教育学研究、第58巻、2019、141-144.

DOI: 2019/02/05 18:28:37

中島千恵、大阪市の挑戦：日本初の公設学校の誕生、『平等と卓越性のバランス政策を軸とする自律的公設学校の国際比較』最終報告書：基盤研究B 海外学術調査：課題番号 15H05291、研究代表者 中島千恵) 2019、17-27.

杉本均、シンガポールにおける卓越性政策と公立自律校、『平等と卓越性のバランス政策を軸とする自律的公設学校の国際比較』(最終報告書：基盤研究 B 海外学術調査：課題番号 15H05291、研究代表者 中島千恵) 2019、129-144

澤野由紀子、スウェーデンにおける自律学校導入による教育機会の多様化と平等・公正性の担保、『平等と卓越性のバランス政策を軸とする自律的公設学校の国際比較』(最終報告書：基盤研究 B 海外学術調査：課題番号 15H05291、研究代表者 中島千恵) 2019、33-53

中島千恵、アメリカ：自律性のゆくえ-深まる葛藤の中で追求する平等と質保障、『平等と卓越性のバランス政策を軸とする自律的公設学校の国際比較』(最終報告書：基盤研究 B 海外学術調査：課題番号 15H05291、研究代表者 中島千恵) 2019、55-71.

石川裕之、韓国：公教育制度の内と外に存在する「2つの自律性」、『平等と卓越性のバランス政策を軸とする自律的公設学校の国際比較』(最終報告書：基盤研究 B 海外学術調査：課題番号 15H05291、研究代表者 中島千恵) 2019、75-99

服部美奈、インドネシア 国際水準校：国民教育における卓越性と教育の平等、『平等と卓越性のバランス政策を軸とする自律的公設学校の国際比較』(最終報告書：基盤研究 B 海外学術調査：課題番号 15H05291、研究代表者 中島千恵) 2019、101-128

渡邊あや、フィンランドにおける地方教育行政の組織と機能、地方教育行政の組織と機能に関する国際比較研究、2019、94-110

中島千恵、書評 谷川至孝著『英国労働党の教育政策「第三の道」 教育と福祉の連携』、教育行財政研究、第46巻、2019、41-44

渡邊あや、大学の自律性に基づく教師の質保証：フィンランドの教員養成、教育 第869巻、2018、28-34

中島千恵、アメリカにおける公立学校民営化の諸相、教育と文化 第92巻、2018年、42-48 .

中島千恵、平等と卓越性のはざま-韓国の英才学校における自律性-、心理社会的支援研究、第9巻、2018年、83-92 .
<http://id.nii.ac.jp/1431/00002845/>

杉本均、世界におけるトランスナショナル高等教育の新展開、第15号、アジア教育研究報告、2018、1-17

中島千恵、公立・私立の保育施設を橋渡しし、保育の質向上と地域のパートナーシップを強化するシステム構築の可能性を探る、平成29年度 地域共同研究教育センター研究成果報告書、2018、105-110

石川裕之、韓国における国家カリキュラムの構成と教育目的 - 初等教育段階に注目して -、畿央大学紀要、2017、19-26、査読有
DOI : 10.24482/00000011

中島千恵、杉本均、服部美奈、澤野由紀子、吉原美那子、渡邊あや、石川裕之、アジアにおける自律的公設学校と国民教育の関係性 - 国際比較の観点から -、日本教育学会大会発表要項、2017年、104-105
DOI : 10.11555/taikaip.76,0_104

〔学会発表〕(計 22件)

中島千恵、澤野由紀子、吉原美那子、杉本均、服部美奈、石川裕之、公教育制度の第3ステージへの模索 - 自律的公設学校の国際比較を通して -、日本比較教育学会第54回大会、課題研究、2018

中島千恵、アメリカ：自律性のゆくえ 深まる葛藤の中で追求する平等と質保障、日本比較教育学会第54回大会(課題研究 「公教育制度の第3ステージへの模索～自律的公設学校の国際比較を通して～」研究代表者 中島千恵) 2018

服部美奈、インドネシア 国際水準校：国民教育における卓越性と教育の平等、日本比較教育

学会第 54 回大会（課題研究 「公教育制度の第 3 ステージへの模索～自律的公設学校の国際比較を通して～」研究代表者 中島千恵）2018

杉本均 シンガポール：コントロールされた自律化、日本比較教育学会第 54 回大会（課題研究 「公教育制度の第 3 ステージへの模索～自律的公設学校の国際比較を通して～」研究代表者 中島千恵）2018

澤野由紀子、スウェーデン：自律学校導入による教育機会の多様化と質保障 - 営利企業参入の功罪 -、日本比較教育学会第 54 回大会（課題研究 「公教育制度の第 3 ステージへの模索～自律的公設学校の国際比較を通して～」研究代表者 中島千恵）2018

原美那子、イギリス：すべての公設学校を民営化へ 自律性の確保と卓越性の追求、日本比較教育学会第 54 回大会（課題研究 「公教育制度の第 3 ステージへの模索～自律的公設学校の国際比較を通して～」研究代表者 中島千恵）2018

石川裕之、韓国：公教育制度の内と外に存在する『2つの自律性』、日本比較教育学会第 54 回大会（課題研究 「公教育制度の第 3 ステージへの模索～自律的公設学校の国際比較を通して～」研究代表者 中島千恵）2018

中島千恵、石川裕之、吉原美那子、Looking for the New Culture in the Public Education System in the 22nd Century?, 42nd Pacific Circle Consortium, 2018

中島千恵、Stories Behind the Autonomy Desired by the Principal of Four Charter Schools in California, 41st Pacific Circle Consortium, 2017

中島千恵 多様性の中の平等への模索 自律的公設学校による学区を越えた学校運営が抱える課題に着目して一、第 53 回日本比較教育学会、2017

中島千恵、杉本均、服部美奈、石川裕之、澤野由紀子、吉原美那子、渡邊あや、アジアにおける自律的公設学校と国民教育の関係性 国際比較の観点から一、日本教育学会第 76 回大会、(ラウンドテーブル) 2017

杉本均、シンガポール：卓越性に焦点を当てた公立学校の自律校化、日本教育学会第 76 回大会(ラウンドテーブル「アジアにおける自律的公設学校と国民教育の関係性 - 国際比較の観点から - 」) 2017

石川裕之、韓国：公教育制度の枠組み維持と自律化 多様化のせめぎ合い、日本教育学会第 76 回大会(ラウンドテーブル「アジアにおける自律的公設学校と国民教育の関係性 - 国際比較の観点から - 」) 2017

吉原美那子、中島千恵、澤野由紀子、渡邊あや、ヨーロッパ諸国の経験からアジアを見る、日本教育学会第 76 回大会 ((ラウンドテーブル「アジアにおける自律的公設学校と国民教育の関係性 - 国際比較の観点から - 」) 2017

服部美奈、インドネシアの国際水準学校の事例、日本教育学会第 76 回大会(ラウンドテーブル：「アジアにおける自律的公設学校と国民教育の関係性 - 国際比較の観点から - 」) 2017

澤野由紀子、北欧諸国における「自律学校」普及度の相違からみる教育の「北欧モデル」崩壊の危機、日本比較教育学会第 53 回大会、2017

澤野由紀子、北欧において今後求められる生涯学習、北ヨーロッパ学会 15 周年記念大会、2017

渡邊あや フィンランドにおける学力保障の取組、日本比較教育学会第 53 回大会、2017

服部美奈、鈴木康郎、ASEAN 市民の教育 - タイとインドネシアの事例から、第 1 回東南アジア教育研究フォーラム、2017

服部美奈、Education in Japan's Remote Islands and Remote Areas as New Frontier, International Seminar: Strengthening of Maritime Culture and Historical Values in the Era of Global Competition (招待講演)、2017

②石川裕之、グローバル化時代における韓国の才能教育の発展と今後の方向性、日本比較教育学会第 53 回大会（課題研究）2017

②石川裕之、The Current State and Challenge of Affirmative Action in Gifted Education in South Korea, 41st Pacific Circle Consortium, 2017

〔図書〕(計 6 件)

田中幸胤、越後哲治、中島千恵編著、安藤和彦、岡崎公典、藤田博之、南本長穂、真下知子、富永光昭、押谷由夫、服部美奈、『改訂 未来に生きる教育学：変動期の教育の構築』、あいり出版、2018、213

関西教育学会編、Takami Shigeru, Ueda Manabu, Hattori Kenji, Murata Yokuo, Kirimura Takafumi, Nakajima Chie, Nambu Hatsuyo, Nishikwa Nobuhiro, Nishikawa Jun, Ohno Yasuki, Shiba Takafumi, Takei Tetsuro, Tanigawa Yoshitaka, 合計 37 名、JAPANESE EDUCATION SYSTEM AND ITS ADMINISTRATION, 2018, 245

川崎一彦、澤野由紀子、鈴木賢志、西浦和樹、『みんなの教育：スウェーデンの「人を育てる」国家戦略、ミツイパブリッシング、2018、237

石川裕之「韓国における才能教育 高度人材育成のための国家戦略」山内乾史編著『才能教育の国際比較』東信堂、2018 年、189-218

日本教育学会編、高妻紳二郎、上田学、高野和子、清田夏代、中島千恵、吉原美那子、『英国の教育』東信堂、2017、239

山内乾史、杉本均、小川啓一、原清治、石川裕之、他、『現代アジアの教育計画 補巻』、学文社、2017、183

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：杉本均

□-マ字氏名：Sugimoto Hitoshi

所属研究機関名：京都大学

部局名：教育学研究科

職名：教授

研究者番号(8桁): 50211983

研究分担者氏名：服部美奈

□-マ字氏名：Hattori Mina

所属研究機関名：名古屋大学

部局名：教育発達科学研究科

職名：教授

研究者番号(8桁): 30298442

研究分担者氏名：澤野 由紀子

□-マ字氏名：Sawano Yukiko

所属研究機関名：聖心女子大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 40280515

研究分担者氏名：吉原美那子

□-マ字氏名：Yoshihara Minako

所属研究機関名：高崎経済大学

部局名：地域政策学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：00422147

研究分担者氏名：渡邊あや

口-マ字氏名：Watanabe Aya

所属研究機関名：津田塾大学

部局名：学芸学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：60449105

研究分担者氏名：石川裕之

口-マ字氏名：Ishikawa Hiroyuki

所属研究機関名：畿央大学

部局名：教育学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：30512016

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。